ユネスコ無形文化遺産保護に関するワークショップ
クロージングセレモニー及びレセプションの開催

７月１日，大使公邸において，ユネスコによる無形文化遺産保護に関するワークショップのクロージングセレモニー及びレセプションが開催されました。
本ワークショップは，ユネスコ無形文化遺産保護日本信託基金を原資として，トリニダード・トバゴにおいてユネスコによる主催の下実施されていたもので，他のカリブ地域では，アンティグア・バーブーダ，ジャマイカ，ベリーズにおいても開催されました。本ワークショップは，「無形文化遺産の保護に関する条約」の締約国における，無形文化遺産の特定及び目録を作成する能力向上，キャパシティビルディングを目的として実施されたものですが，今回のトリニダード・トバゴにおけるワークショップも含め，カリブ地域においても無形文化遺産保護に関する人材育成に対して，日本政府は積極的に支援，協力を行っております。

本クロージングセレモニーでは，トリニダード・トバゴ政府代表として，ダグラス芸術・多文化省大臣及びバスコム同省次官，そしてランパサード・トリニダード・トバゴ　ユネスコ代表，グラン・ユネスコジャマイカオフィス代表，またユネスコより招待された南アフリカ及びオランダからの関連分野の専門家ら，当地外交団及びメディア関係者ら出席の下，本件ワークショップの参加者らに対してダグラス芸術・多文化省大臣及び手塚義雅大使より修了証が授与されました。

手塚大使は，本セレモニーの冒頭において，無形文化遺産とは様々な形で世代間で継承されているが，現在，急激な社会変化の中でそうした遺産が失われようとしていると述べ，そのような中，日本が有形文化遺産及び無形文化遺産保護に関して積極的な役割を担ってきた点を紹介しつつ，日本とカリブ諸国におけるさらなる協力関係構築に向けて努力していきたいとの挨拶を行いました。
クロージングセレモニーに引き続きレセプションが開催され，各参加者間において有意義な交流が行われました。また，会場には数種類の日本酒のテイスティングコーナーも設けられ，参加者の多くが日本酒の味を堪能する等，有意義な文化交流の場となりました。